



不可能を、可能にーそれが、SICKのセンサインテリジェンス。

SICK
Sensor Intelligence.

本社：東京都中央区本町1-32-2 ハーモニータワー13F TEL. 03-5309-2115
URL <https://www.sick.com/jp> e-mail support@sick.jp

Electronics Solutions Company
KANADEN

株式会社カナデン



FA・製造業の最前線から生の声をお届け
<https://automation-news.jp/fa-interview/>

この技術が、世界を変える。
この技術で、未来を変える。
change the world. for the future.

HOKUYO

<https://www.hokuyo-aut.co.jp/>

FA業界掲示板

オートメーション新聞WEB URL付き記事はこちらから→<https://www.automation-news.jp/category/topics/>

■三菱電機、Media Libraryと表示器GOT特設ページ「もっとGOTを知ろう！」に機能紹介動画を追加

三菱電機は、Media Libraryと表示器GOT特設ページ「もっとGOTを知ろう！」に機能紹介動画「シケンサの保守作業をパソコンレス化！MELSEC連携」、「サーボ・インバータの調整・予防保全・保守作業をGOT上で実現！駆動機器連携」を追加した。

■三菱電機、The Art of Manufacturing情熱ボイスに「形彫放電加工機SV-Pシリーズ～半導体パッケージオプション～篇」を公開

三菱電機は、産業界向け情報メディア「The Art of Manufacturing」の情熱ボイスに放電加工機SV-Pシリーズの開発ストーリー「形彫放電加工機SV-Pシリーズ～半導体パッケージオプション～篇」を公開した。全3回の1回目。



■三菱電機、中高生女子向け理系職場体験プログラム「Girls Meet STEM Career」に参画

三菱電機は、中高生女子のSTEM(理系)進学の可能性を広げることを目的に、STEM領域の職場体験プログラムを中高生女子に提供する山田進太郎D&I財団の新事業「Girls Meet STEM Career」に参画した。「Girls Meet STEM Career」は、財団と企業と協力し、オフィスツアーやSTEM分野で働く女性との交流などを通じて中高生女子に魅力を伝えることで、STEM進学の可能性を広げる機会を提供するプログラムとなる。

■アズビル、マレーシア工科大学と包括的な協働関係強化で覚書を締結

アズビルは、マレーシア工科大学(UTM)、マレーシア日本国際工科院(MJIIIT)と産学連携を含めた包括的な協働関係強化について覚書を締結した。これまで同社は2019年にMJIIIT卒業生を採用し、2023年からインターンシップ生を受け入れている。



またASEAN域内の脱炭素化を実現するための官民イニシアチブ「CEFIA (Clean Energy Future Initiative for ASEAN)」の中でUTM/MJIIITと協働し、同校学生への省エネ教育と省エネ調査ツールの開発を行い、産業界向け省エネセミナーを実施し

た。今後も脱炭素化技術をはじめ、計測・制御技術に基づく共同研究や開発などを進めていく。

■オムロン、制御機器の在庫状況の確認サービスを開始

オムロンは、制御機器の納期改善、即日出荷体制の拡充を受け、制御機器製品の在庫状況を照会できる「在庫状況検索サービス」を開始した。商品形式を入力することで機種ごとの在庫状況を確認できる。また近日中に、掲載対象機種の拡大や標準価格も照会できるサービスの開始を予定している。

■キーエンス、課題解決サイト「測定課題解決ライブラリ」に3D測定の新事例を追加

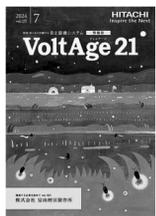
キーエンスは、高難易度な測定の課題解決サイト「測定課題解決ライブラリ」に事例を追加し、「手間をかけずに穴位置を測定する方法」「非接触で体積を測定する方法」「シートメタル(板金)の検査を最適化する方法」などあらゆるワークの3D測定を正確・瞬時に行う方法を紹介している。

■安川電機、テクニカルレポート「カーボンニュートラルに貢献する完全走行装置レス内板塗装システム」を公開

安川電機は、テクニカルレポート2024 No.4として「カーボンニュートラルに貢献する完全走行装置レス内板塗装システム～2023国際ロボット展出展事例より～」を公開した。2023国際ロボット展では、「i-Mechatronicsによるスマートモノづくりの実現」をテーマに、塗装用途最適ロボットであるMOTOMAN-MPX3500と塗装用途向けオープンロボットMOTOMAN-MPOシリーズを活用して開発した塗装ロボットシステムを出展した。レポートでは、出展内容をベースに完全走行装置レス内板塗装システムについて紹介している。

■日立産機システム、情報誌「VoltAge21」vol.135 2024年7月号を発行

日立産機システムは、情報誌「VoltAge21」vol.135 2024年7月号を発行した。ユーザー企業訪問「躍進する企業を訪ねて」では富山村田製作所を取り上げ、製品紹介としてエネルギー回収システム、廃熱回収ユニット、オイルフリーペビコンRシリーズ、小型高機能インバータWJシリーズC1などを紹介している。



■IDEC、ファインパブル関連事業をIFBテクノロジーズに事業譲渡

IDECは、7月1日付でファインパブル関連事業をIFBテクノロジーズに事業譲渡した。IFBテクノロジーズは、2024年4月設立のファイン

パブル技術専門企業。IDECファインパブル事業部に在籍していたメンバを中心に構成され、ファインパブル生成装置「GaLF」などファインパブル関連機器の製造・販売、受託開発などを事業としている。今回の事業譲渡によりIDECが提供してきたファインパブル関連製品の保守・サポート業務はIFBテクノロジーズが引き継ぐ。

■東芝インフラシステムズ、長野電鉄と自動化レベルGOA2.5に対応する自動運転システムを開発

東芝インフラシステムズは、業界で初めて線路内に設備を追加せず、「自動化レベルGOA2.5」に対応する自動運転システムを開発に成功した。開発は長野電鉄と共同で行い、長野電鉄長野線の一部区間で自動運転システムの実証試験を実施し、±50秒以内の停止位置精度を確認した。また、夜間70km/hでの走行時に前方の200m先の支障物を検知し、運転士の操作で支障物までに停車できることを確認した。

■シュナイダーエレクトリック、コニカミノルタでのソリューション導入事例を公開

シュナイダーエレクトリックは、コニカミノルタでのソリューション導入事例「製造ラインのデータベース構築で生産品質の「見える化」に成功」を公開した。コニカミノルタは、液晶ディスプレイの重要部品である主力商品「TACフィルム」の生産品質と製造効率の向上を目指し、自社で活用するデータベースの構築を目的とした製造ラインのデータを収集・分析を容易にするAVEVA Historianをはじめとしたソリューションを一括導入した。

■アドバンテック、洪水防止スマートゲートシステムが福岡県直方市の防災システムに採用

アドバンテックは、直方市と福岡大学電子情報工科大の大橋研究室と産官学連携で共同研究を進めてきた洪水防止スマートゲートシステムが、直方市の防災システムの水位監視システムとして正式に採用された。4年間の研究開発では、産業用ワイヤレスモジュールとエッジコンピュータを組み合わせ、さまざまな降雨状況下で直方市内の22カ所のモニタリングポイントで水位のリアルタイム状況を記録し、1カ所の洪水防止ゲートにおいて遠隔操作を行ってきた。

■ワゴジャパン、差込みコネクタ発売50周年記念キャンペーン「差込み派と圧着派、あなたはどっち!？」開催

ワゴジャパンは、差込みコネクタの発売50周年を記念したキャンペーン「差込み派と圧着派、あなたはどっち!？」を開催している。電気工事における屋内配線について、差込みコネクタと圧着スリーブのどちらを使っているかのアンケートに答えると、抽選でプレステーション5やニンテンドースイッチなど豪華プレゼントが当たるキャンペーン。締切は12月15日まで。抽選は9月24日と12月16日の2回行われるダブルチャンスとなっている。

セミナー・イベント

■安川電機、8月26・27日にコントローラ・サーボの無料オンラインセミナー開催

安川電機は、8月26・27日にモーションコントロール製品をベースとした無料オンラインセミナーを開催する。8月26日は、エンジニア ACサーボドライブΣ-XシリーズリンクツールMPE720のシミュレーション機能とACサーボドライブΣ-Xの新しい機能を紹介。8月27日は、サーボドライブ基礎セミナーとして初めてサーボを使う方向けに分かりやすく解説する。



■富士電機機器制御、7月26日名古屋ウイंकあいちでプライベート展示会を開催

富士電機機器制御は、7月26日名古屋市中村区のウイंकあいちでプライベート展示会「新形電磁閉閉器SC-NEXT発売記念富士電機機器制御プライベート展～盤の未来を考える強い製造現場の実現に向けて～」を開催する。

■パトライト、8月1日ウェビナー「カーボンニュートラル実現のための『生産現場数値化。の始め方』開催

パトライトは、8月1日13時30分～ウェビナー「『現場が推進するカーボンニュートラル』カーボンニュートラル実現のための『生産現場数値化。の始め方』」を開催する。同社で行ったアンケートを基に、製造業のカーボンニュートラル取り組みの現状と課題、既存設備でもスムーズスタートで取り組めるカーボンニュートラルへの施策を紹介する。

■コンテック、7月26日ウェビナー「進む社会インフラのスマート化、映像データを最長1km伝送可能な無線LAN技術とは」

コンテックは、7月26日11時から無料ウェビナー「進む社会インフラのスマート化、映像データを最長1km伝送可能な無線LAN技術とは」を開催する。同社で行ったアンケートを基に、製造業のカーボンニュートラル取り組みの現状と課題、既存設備でもスムーズスタートで取り組めるカーボンニュートラルへの施策を紹介する。



Rittal - The System.

Faster - better - everywhere.

データ連携による 制御盤製造の自動化ソリューション

- ・標準品による効率向上
- ・高い保護等級・国際認証各種取得
- ・海外向け制御盤にも最適の製品を各種ラインアップ
- ・リタール オートメーション システムズ



Blog



YouTube

リタール株式会社

<https://www.rittal.com/jp-ja/>

◆お問い合わせ◆ 0120-998-631 • contact@rittal.co.jp



FAトップインタビュー【特別編】 PLCこれからどうなる？制御のソフト化・PC化の行方②

リンクス

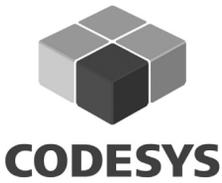
PLCは機械の心臓部 PC制御の本格普及はもう少し先に 水面下で採用広がるCODESYS ラズパイきっかけで加速も

今、FA業界で最も熱いトレンドである「PC制御・ソフト制御」を語る上で世界トップシェアのソフトPLC「CODESYS(コーデシス)」の動きは欠かせません。2012年からCODESYSの国内総代理店として日本におけるソフトPLC・PC制御の普及活動を進めてきたLINXの村上慶代表取締役社長に、PC制御・ソフトPLCとCODESYSの現状について話を聞きました。

ファナック、ヤマハ、山洋電気など CODESYS採用

—最近PC制御、ソフトPLC市場が熱を帯びています。

実は見えないところで日本のFA機器メーカーや機械メーカーでCODESYSは採用され、OEMという形で少しずつ浸透しています。当社が開催している年1回のイベント「LINX DAYS」ではすでに発表されていることですが、全世界では400社を超えるOEMメーカー、数千社のエンドユーザーで採用され、日本でもファナックやヤマハ発動機、山洋電気、コンテック、ハイパーテックをはじめ、多くのロボットメーカーやFA機器メーカーでOEMされて着実に広がっています。



代表取締役社長 村上 慶氏

考える人はどんどん増えてくると思います。日本は今キャズムの深い溝にはまっていて、それを乗り越えられるかどうかの局面にきています。

産業用ラズパイで食わず嫌いを解消

—溝を乗り越えるためには？ CODESYSがもっと広く知られる必要があることと、いきなり心臓手術に取り掛かる前に練習してPC制御に慣れていくことが大切です。そこに向けた商品として、2023年1月にCODESYS搭載の産業用ラズパイ「TRITON(トリトン)」を発売しました。おかげさまで発売以来とても好評です。普段PLCを使っている人に使ってもらったところ、すぐに扱えるようになり、いいねと高評価をいただきました。カラーユーザーにスマートフォンを渡しても何となく操作できるように、PLCに触っている人であればTRITONもCODESYSもすぐに慣れ、実際に触ってみたらPLCとさほど変わらないことに気づくと思います。PC制御は食わず嫌いをされているところもあるので、そこを解消していきたいと思っています。



ソフトPLCは人手不足、生産性向上にも効果的

—ソフトPLC、PC制御のメリットと今後の展開について。ソフトPLCの特長は、ハードウェアの選択肢が多く、最適なものを選ぶこと。最低限のCPUとメモ

リ、Ethernetさえあれば装置を作ることができ、無駄にハイスペックなものを作らなくて済みます。逆を言えば、TRITONに搭載されているCODESYSも、産業用PCに搭載されているCODESYSも標準プログラムは共通であり、作ったプログラムを使いまわしたり、流通させやすいというメリットがあります。

例えば、コロナ禍の半導体や部品不足で1社依存は危険だと実感した人は多いと思います。ソフトPLCであればハードウェアは手に入れやすく、リスク回避にもなりBCPにも優れています。

また既存のPLCはメーカーごとに言語が異なります。それに対してCODESYSは標準プログラムであり、人手が足りない時は手伝ってもらったり、自分が手伝ったりすることも容易にできます。ソフトPLCの利用は人手不足対策としても有効で、実際にヨーロッパではCODESYSを扱える技術者は人材市場での価値が高く、重宝されています。

さらに、CODESYSは制御や通信、UI、データ処理、IOなど必要な機能を1つのソフトで作ることができます。日本では装置を作る際、それぞれの機能に別々の人が作り、分業化されています。だからスピードが遅く、コストも高く、生産性が低くなってしまいます。CODESYSを使えば1人で全て完結し、例えばHMIの画面作成もHTML5対応の画面作成機能で簡単に作れます。生産性を高めるといって意味でも有効です。

今後CODESYSの普及に向け、①コントローラーメーカーへのOEM、②装置メーカーへのソフトウェア提供、③TRITONの拡販という3つの戦略を継続して進めていきます。TRITONは直販と一部商社経由での販売に加え、このほどWEB通販でも購入できるよう仕組みを整えました。

TRITONがヒットしていることもあり、CODESYSの年間ダウンロード数もまったく知られていなかった10年前に比べれば今は100倍や200倍まで増えています。著実にCODESYSユーザーは増えてきており、今後も継続して普及に努めていきます。

https://linx.jp/

RR「ハノーバメッセ2024報告書」公開



RR「ハノーバメッセ2024報告書」は、4月に行われた世界最大の産業見本市ハノーバメッセ2024について、同展で実施したドイツプラットフォーム「Industrie 4.0 (PI4.0)」の独自調査協力の成果発表、製造関連データベースの動向調査についての報告と欧州データベースの動向についてまとめた報告書「ハノーバメッセ2024報告書」産業データベースの動向とその後進捗の欧州データ戦略の公開した1冊。ドイツの製造業では「サイバー・フィジカルシステム(CPS)」の進化、データベースの展開を合わせ、産業データ連携による破壊的なイノベーションの予兆が着々と整えられており、その背景にある欧州データ戦略の動向を解説し、日本の製造業のデータ連携における課題についても述べている。

RR「ハノーバメッセ2024報告書」は、4月に行われた世界最大の産業見本市ハノーバメッセ2024について、同展で実施したドイツプラットフォーム「Industrie 4.0 (PI4.0)」の独自調査協力の成果発表、製造関連データベースの動向調査についての報告と欧州データベースの動向についてまとめた報告書「ハノーバメッセ2024報告書」産業データベースの動向とその後進捗の欧州データ戦略の公開した1冊。ドイツの製造業では「サイバー・フィジカルシステム(CPS)」の進化、データベースの展開を合わせ、産業データ連携による破壊的なイノベーションの予兆が着々と整えられており、その背景にある欧州データ戦略の動向を解説し、日本の製造業のデータ連携における課題についても述べている。

前年比の7.3%増 過去最高を記録

セーフティ機器の独・ピルツ社は、2023年の売上が過去最高となったことを明らかにした。23年の売上高は22年比7.3%増の4億3300万円で、約2946万台増えた。地元ドイツで初めて1億円の売上高を達成したのは、はじめ、イタリア、韓国、イス、オーストリア、英国、トルコなどで売上を伸ばしている。輸出比率は75.4%で前年比1.1%減少した。23年は、年初に部品調難が影響を及ぼしたが、23年6月に新しいEUI機械規則が公示された。この機械規則では、初めてセキュリティがエンジニアリング全般において必須要件となっている。これにより機械メーカーは、自社の次世代の機械制御部、およびネットワークインフラにおいて規定のセキュリティ仕様を考慮しなければならなくなる。同社では新しい法的要件に対応するセキュリティやオートメーションソリューションを開始しており、安全オートメーションメーカーとして機械安全と産業サイバーセキュリティの両方をカバーするサービスとソリューションを取り組みを強める。今年4月に開催された「ハノーバメッセ2024」で同社は、初めての非自治自律の標準化された通信システム「IO-Link Saeft」のための包括的システムを発表した。また、新しいサイバーパッケーシ「TSCS」産業サイバーセキュリティ・コンサルティングサービスも開始している。このサービスは、機械の産業サイバーセキュリティの新しい要件を満たせるように企業各社を支援する。最初のハイブリッドプロジェクトとして、ドイツとオーストリアで開始している。同社は24年を厳しい1年と展望しているが、反転の兆候を

工場をいろんな無線でつなぎます



Enabling an Intelligent Planet

ECU-1051(LTE/Wi-Fi) ECU-150(LTE/Wi-Fi) ECU-1252(LTE/Wi-Fi/CAN) エッジゲートウェイ



ARM A8 ARM A53x4 ARM A8

WISE-4220(Wi-Fi 2.4G) WISE-4210(SUB-G) WISE-4471(NB-IoT/LTE-M)

WISE-2210(SUB-G) WISE-2211(SUB-G) WISE-2200-M(LoRaWAN) CT給電対応/アナログ入力

WISE-4610 (LoRaWAN) WISE-4671 (NB-IoT/LTE-M)

WISE-40XX (Wi-Fi 2.4G)

WISE-S100 タワーライトセンサ後付け

WISE-2410(LoRaWAN) WISE-2410X(LoRaWAN) 振動センサ電池駆動型

いろいろ選択可能な入出力を提供

アドバンテック株式会社 https://www.advantech.com/ja-jp/



【東京本社】 〒111-0032 東京都台東区浅草6-16-3

TEL : 03-6802-1021 FAX : 03-6802-1022

【大阪支店】 TEL : 06-6267-1887 FAX : 06-6267-1886

【名古屋支店】 TEL : 052-291-4860 FAX : 052-291-4861

寄稿

AIと機械学習はランサムウェア防御において劇的な変革をもたらすことができるのか？

著: Cohesity Japan株式会社 技術本部 本部長 笹 岳二



4. AIによるランサムウェア検知

AIとMLは膨大な量のデータを精査し、ネットワークトラフィックやファイルアクセスを分析することができるため、企業は差し迫った攻撃の兆候、あるいは現在進行中の攻撃の兆候を発見し、マルウェアを無力化することができます。

5. AIによるバックアップデータ管理

AIとMLは、重要なデータのニーズ、使用パターン、季節性に基づいてバックアップスケジュールを最適化します。これには、バックアッププロセス中に非アクティブなデータを特定し、削除することも含まれます。アーカイブに適した休眠データを識別することで、AIはリカバリ時間を短縮し、未使用の情報の不要な検索を排除し、同時にストレージコストを削減しながら効率を高めます。

悪意のある攻撃者がAIとMLを活用して攻撃の巧妙さと執念深さを強化する中、組織はAI&MLテクノロジーの変革力を活用した最新のデータセキュリティ保護・復旧機能を活用して、進化し続けるサイバー脅威を保護、検出、対応する必要があります。AIとMLを搭載したデータセキュリティおよび管理プラットフォームは、これらの機能を提供することで、ランサムウェア防御を劇的に向上させ、昨今悪化するサイバー環境に対応するためのデータセキュリティとサイバーセキュリティ体制の強化が、組織にとって焦点となるべきです。

<https://www.cohesity.com/jp/>

新しい「E」

プログラムの考え方

日本カイゼンプロジェクト 会長 柿内幸夫

これからの日本式デジタル化①

現在の世の中はデジタルが牽引しているような印象を受けます。しかし日本はデジタル化において欧米に比べて遅れているという課題を自分たちで解決できずに困っているという残念な現状を憂えています。コロナ禍を受け、様々なことを言われていますが、実は私も少し前までこの方面では全くの素人でした。しかし、この間に様々な経験を通じて、デジタル化の重要性を感じました。そして、この間に様々な経験を通じて、デジタル化の重要性を感じました。そして、この間に様々な経験を通じて、デジタル化の重要性を感じました。

この間の経験を通じて、デジタル化の重要性を感じました。そして、この間に様々な経験を通じて、デジタル化の重要性を感じました。そして、この間に様々な経験を通じて、デジタル化の重要性を感じました。

この間の経験を通じて、デジタル化の重要性を感じました。そして、この間に様々な経験を通じて、デジタル化の重要性を感じました。そして、この間に様々な経験を通じて、デジタル化の重要性を感じました。

この間の経験を通じて、デジタル化の重要性を感じました。そして、この間に様々な経験を通じて、デジタル化の重要性を感じました。そして、この間に様々な経験を通じて、デジタル化の重要性を感じました。

この間の経験を通じて、デジタル化の重要性を感じました。そして、この間に様々な経験を通じて、デジタル化の重要性を感じました。そして、この間に様々な経験を通じて、デジタル化の重要性を感じました。



【略歴】柿内幸夫 1951年東京生まれ。株式会社日本カイゼンプロジェクト 代表取締役社長として、デジタル化の推進に尽力。経営者としての経験も豊富。経済産業省先進技術推進センター、改進黨の役員として、デジタル化の推進に尽力。



日本カイゼンプロジェクト
https://www.kaizenproject.jp/

タナベコンサルティンググループ
WE ARE BUSINESS DOCTORS since 1957

ストラテジー & ドメイン / デジタル・DX / HR / ファイナンス・M&A / ブランディング & マーケティング

製造系研究会開催中！

日本全国の「ファーストコールカンパニー（顧客から一番に選ばれるサステナブル企業）」の先進事例、成功事例を研究。ゲスト企業による実践型講義・現場視察から、現場の「リアルなポイント」を学べます。また、同じ志を持つ多種多様な参加企業・参加者との情報交換も可能です。

先端技術研究会
スマートファクトリー研究会

TCG TANABE CONSULTING
東京都千代田区丸の内1-8-2、大阪市淀川区宮原3-3-41

タナベコンサル

工場新設・増設、設備投資情報

オートメーション新聞WEB URL付き記事はこちらから→<https://www.automation-news.jp/category/factory/>

国内

■キリンビール、愛知県清須市の名古屋工場で自動倉庫の増強、ピッキング自動化など物流2024年問題に対し自動化強化

キリンビールは、愛知県清須市のキリンビール名古屋工場、自動倉庫の増強として「新自動ラック」と「レイヤー自動ピッキング装置」を導入する。商品の保管倉庫に関しても、従来清涼飲料の保管をしていたスペースを酒類倉庫として整備し、酒類保管スペースを拡張し、2025年4月より運用を開始する。



新たな自動ラックでは、ラック内で荷物の搬送を行うクレーンと出入庫ステーションを更新し、出入庫能力を増強。出入庫口数の増設と出庫スピードを従来比の約2倍に向上させ、14分/台の待ち時間を削減する予定。従来の自動ラックに比べ、倉庫の収容能力は3.3倍に向上させた。

レイヤー自動ピッキング装置は、これまで人手作業で行っていた、製品保管ラックからフォークリフトで製品を取り出し、出荷パレットに製品を載せて整える一連の作業を自動化し、人手は約半分で済むようになった。ピッキングパレットも減り、トラックへの積み込みの生産性が上がり、5分/台の待ち時間削減に寄与する。

酒類保管スペースの拡張では、従来場外倉庫と出荷拠点の工場を行き来していたトラック約2000運行が抑制され、場内に入庫するトラックが減り、混雑が緩和されることで約4分/台の待ち時間抑制につながる。

設備投資金額は約10億円。新自動ラックとレイヤーピッキング装置は、2024年6月に完成し、試運用を経て2024年9月から最大出力で稼働する予定。酒類の保管スペースは2025年4月の運用開始を予定している。

■愛工機器製作所、新潟県新発田市のパッケージ基板用コアの新工場竣工

愛工電機の連結子会社の愛工機器製作所は、新潟県新発田市のパッケージ基板用コアの新工場を竣工した。

新工場は、京セラ旧新潟新発田工場の建屋を2023年3月に取得し建屋改修と生産設備の設置を経て竣工。生産するパッケージ基板用コアは、5G通信やAI、IoTの普及加速を背景に中長期的に需要拡大が見込まれている。

すでに第4期投資(90億円)として新発田工場への生産設備増設を開始しており、この第4期投資分については2025年7月から順次稼働開始する予定。延床面積は約3万494平方メートル(2階建て)。第3期投資額は、約76億円。

Fukunishi

人・技術・情報の架け橋となり、最適解で「福」あふれる未来をつくる。

福西電機株式会社

■東郷メディキット、宮崎県日向市に医療用カテーテルなどの新工場

東郷メディキットは、宮崎県日向市に新工場となる「メディキット日向第三工場」を増設する。同社は、昭和48年から主に医療用留置針や医療用カテーテルの製造を行っており、特に人工透析用留置針、静脈用留置針を強化。今回の計画は、受注の増加に向けて生産能力の向上を図る装置を導入するとともに、災害時の生産・出荷停止を最小限に抑えるため既存工場の機能を新工場に移設する。

■ミダック、静岡県浜松市に新規の水処理施設を建設

ミダックは、既存の水処理施設の処理能力の増強と老朽化への対応のため、静岡県浜松市に新規の水処理施設となる「都田事業所」を建設する。処理能力は既存施設の5倍になる見通し。投資金額は約35億円。稼働開始は2026年4月を予定している。

■シード、埼玉県鴻巣市のシード鴻巣研究所内の新生産棟が竣工。コンタクトレンズの月産生産能力が6500万枚に

シードは、2023年9月よりシード鴻巣研究所(埼玉県鴻巣市)敷地内で建設を進めてきた2号生産棟の別館が竣工した。



新棟では、1日使い捨ておよび新素材のコンタクトレンズの製造ができ、生産能力はコンタクトレンズ700万枚/月あり、これによりシード鴻巣研究所のコンタクトレンズ生産能力は約6500万枚/月となる見通し。

建築面積は1389平方メートル、延床面積は1389平方メートル。投資金額は45.5億円。

■日創プロニティ、福島県石川郡石川町の福島工場の新工場棟が竣工。稼働開始

日創プロニティは、福島県石川郡石川町の福島工場の新工場棟が竣工し、4月30日に稼働開始した。耐火パネル生産ラインの増設、不燃断熱パネル生産ラインを新設した。延床面積は、5853平方メートル。

■東ソー、三重県四日市市の四日市事業所に分離精製剤の製造設備を新設

東ソーは、四日市事業所(三重県四日市市)に分離精製剤の製造設備を新設し、生産能力を20%引き上げる。

分離精製剤はバイオ医薬品などの製造工程で使用されており、バイオ医薬品市場は主力の抗体医薬品に加え、核酸医薬品、遺伝子治療薬など新たな分野も出てきてさらなる成長が見込まれている。市場成長による旺盛な需要に対応するため、四日市事業所に製造設備を新設して生産能力を強化し、製造拠点と保管拠点の分散化により、事業継続計画(BCP)の観点からも強固な安定供給体制構築を図る。投資額は140億円。2024年5月着工。2026年12月完工予定。2027年6月予定商業運転。

■大王製紙、愛媛県四国中央市の三島工場にセルロースナノファイバー複合樹脂の商用プラントを設置

大王製紙は、セルロースナノファイバー(CNF)複合樹脂の商用プラントを三島工場(愛媛県四国中央市)に設置する。2025年度に年産2000トンの生産を目指す。

CNF複合樹脂は、CNFの軽くて強い特長を生かし、自動車部材、家電製品、建材、日用品、容器・包装などの分野への用途展開が期待され、2022年にパイロットプラントが稼働して以降、用途開発が加速している。設備投資額は約40億円。2025年度中運転開始予定。

■マルタイ、佐賀県唐津市の佐賀工場で棒ラーメン製造ライン増設

マルタイは、棒ラーメンの生産体制の強化と効率化をすべく、佐賀県唐津市の佐賀工場で製造ラインを増設する。

棒ラーメンの製造拠点は、佐賀工場1ライン(2022年3月竣工)と北波多工場1ライン(1966年1月)の2工場2ライン体制で行っている。北波多工場は竣工から58年が経過し老朽化していることに加え、2工場体制の非効率性が課題となっていたため、佐賀工場内に1ライン増設して生産体制を強化する。増設ラインの生産能力は13.2万食/日で、既存ラインと合計すると日産26.4万食/日が可能となる。

増設するラインの稼働開始は2026年7月を予定。投資額は21億円。

海外

■新田ゼラチン、インドでコラーゲンペプチドの生産能力を拡大

新田ゼラチンは、連結子会社のニッタゼラチンインディアでコラーゲンペプチドの生産能力を拡大する。

コラーゲンペプチドは高純度のたんぱく質で、栄養補助食品やヘルスケア製品、医薬品などにも使用され、関節の健康促進ニーズや美容サポート需要の高まりを背景にコラーゲンの世界市場規模は拡大している。現在、同社のコラーゲンペプチドの生産能力は年間600トンで、今回の設備投資によって生産能力を年間550トン引き上げる。竣工予定は2025年6月。

■キッツ、ブラジルの工業用ボールバルブ新工場が竣工

キッツは、ブラジルの生産拠点である子会社のMetalúrgica Golden Art's Ltda.(MGA)の新工場が竣工した。

新工場はブラジル国内市場向け工業用ボールバルブを生産し、敷地面積は2万8000平方メートル。建物面積は6189平方メートル。生産能力を30%向上となる。

■JSP、インドとメキシコに発泡ポリプロピレンと成型品の新工場

JSPは、インドとメキシコに、自動車部品用途などで需要拡大が見込まれる発泡ポリプロピレン「ARPRO」とその成型品の新工場を建設する。イン

ドの新工場のブネ工場の敷地面積は4200平方メートル。2024年10月に稼働開始予定。メキシコ第2工場となるラモス・アリスベ工場は、敷地面積1万4000平方メートルで、2025年稼働開始予定。

■大同工業、ベトナムに生産設備設計・製造の新工場

大同工業は、二輪車用チェーンと産業機械用チェーンの製造・販売、生産設備の設計・販売を行っているベトナム子会社DID VIETNAM CO.,LTD.に約7000万円を増資し、生産設備の設計から製造、販売の一貫対応の構築に向けて新工場を建設する。新工場の延床面積は1210平方メートル。

■タムラ製作所、メキシコ工場の大型トランス・リアクタの生産能力増強

タムラ製作所は、北米市場において拡大する風力・太陽光発電設備や、データセンター関連の需要に対応するため、それら設備の電源システムなどで使用される大型トランス・リアクタを生産するメキシコの連結子会社Tamura Power Technologies de Mexico S.A.DEC.V.(メキシコ工場)の生産能力を増強する。



大型トランス・リアクタは、大規模風力設備や太陽光発電設備、データセンターの電源システムなどに使用され、北米市場向け製品はメキシコ工場で生産している。すでに2023年にメキシコ工場の当該製品生産能力を約1.5倍に引き上げる拡張工事を行っており、新たに追加投資を行って近隣に新工場を建設する。追加投資金額は約100万ドルで、2024年後半の稼働の計画。

■ミネベアミツミ、カンボジアに機械加工品の新工場を建設。2026年度中に一部稼働開始

ミネベアミツミは、カンボジア王国プルサット州クラコー地区に新工場を建設する。新工場用地は、プノンベンから約170キロメートル北西に位置し、建設予定の新工場は2025年3月期中に一部建設を開始し、2027年3月期中に一部稼働開始を計画している。面積は約50万平方メートル。

また、同社は2050年のカーボンニュートラルを目指し、カンボジア国内の既存工場と将来の工場拡張時に必要となる電力の全量を再生可能エネルギーで対応する計画で、プルサット州クラコー地区で50MW規模の太陽光発電事業をSchnei Tec社と共に2026年3月までに開始する予定。

Just in your products
Just Products

挑戦する盤メーカーをサポートする会社

コスト、生産性、脱炭素。それだけにどまらない、銅バー加工の外注化のメリットをお伝えします。

株式会社ジャストプロダクツ



世界の製造業が採用
IPC 品質標準規格



グローバルに通用する製品品質を備え、世界各地での躍の第一歩に――



ジャパンユニックスではIPCの標準規格書・情報・サービスを提供しています

IPC 標準規格書 無料版 まずはwebからダウンロード 『IPC』『規格』『無料』で検索

はんだ付工程を
見える化する

卓上型はんだ付ロボット UNIX-DF シリーズ

- 『Soldering Manager』でははんだ付のIoT化へ
ジャパンユニックス独自のはんだ付ロボット管理ソフトウェア・『Soldering Manager』を使用して
モニタリング・稼働ログの保存が可能
- 3D ソルダリングの実現
付加軸2軸を加えた6軸同時制御により
ロボット操作のみで複雑形状の製品へのはんだ付が容易に



ジャパンユニックス製品 導入事例集 webにて公開 『はんだ付 導入事例』で検索